

★ 琴 高 通 信

第13号

編集発行
香川県立琴平高等学校
香川県仲多度郡琴平町142-2
電話0877(73)2261

紙面の紹介

- なぎなた部 全国高校総体優勝
- 剣道部 男女全国高校総体出場
- 山岳部 全国高校総体出場
- 琴平から東北へとつながるプロジェクト
- 野球部 春季大会準優勝
- 全日本吹奏楽コンクール 高校A部門初出場

2013 全国高校総体出場!!

なぎなた部

春夏連覇

- 団体試合 優勝 (氏家・大山・白川・今井・山田・竹内・宮武)
- 個人試合 優勝 (大山) 第2位 (白川)

私達は、八月二日から四日に行われた佐賀インターハイで、団体優勝、個人優勝、準優勝の成績を取ることができました。春の全国選抜大会で優勝し、夏のインターハイも「絶対優勝!!」を目標に稽古に励んできました。応援してくださっている人達の期待と、私達自身も優勝を意識し大きなプレッシャーを感じていました。しかし、今まで通りやってきたことを出し切れば大丈夫とみんなで声をかけあい一戦一戦を全力で戦いました。決勝戦では出場した全員がすべてを出し切り、悔いのない試合をすることができました。優勝が決まった瞬間、喜びと達成感でいっぱいでした。みんなで頑張ってきたよかったです。心の底から思いました。

私達を指導してくださる先生方や、応援してくださる人達、仲間、そして私達をいつも支えてくれた家族、すべての人に感謝しています。私達には、最後の一つ団体があります。春、夏と優勝を勝ちとってきました。団体も優勝を目標に、また気持ちを入れ替えて練習にとり組んでいきたいと思えます。



春の全国選抜大会での優勝以降、全国のチームから目標とされ、研究されての今大会は、選抜大会以上に厳しい試合となりました。しかしながら、そのような中でも「チームで一本! チームで勝つ!」ことを目標に選手一人ひとりが自分の役割を確実に果たし、力を出し切った試合をすることができました。それが今回の団体優勝、個人1位・2位独占という結果につながり、大変嬉しく思います。残るは団体優勝ただ一つ。三冠目指して頑張ります!

顧問 三井・千葉

主将 氏家 京香

剣道部

男子団体出場 (安西凌・三好優・乙部・笠井・江戸・安西潤・山崎) 女子個人出場 (池内)

男子団体は6年ぶり、女子個人は昨年に続いての出場となりました。結果は、団体・個人共にあと一歩のところで惜敗しましたが、高校生の最高の舞台であるインターハイに、応援生徒も含め全部員が参加し、その雰囲気を感じ、色んな経験をしてもらえたこと、顧問としてたいへん嬉しく思います。3年生はこれからの人生で、2年・1年生はこれからの試合で大いに生かしてもらいたいです。

山岳部

結果 ・ 男子32位 ・ 女子25位

山岳部は、大分県竹田市で行われた全国高等学校総合体育大会 (8月2日~8月6日) に出場しました。昨年は県大会で惜しくも敗れ、悔しい思いをしました。今年は男女でインターハイに出場でき、全国大会のレベルの高さを知ることができました。1年生メンバーが多いパーティーなので、練習を重ねて、来年更によい結果を出せるように頑張ります。



野球部

平成25年度春季大会 準優勝!!

野球部は、平成二十五年度春季四国地区高校野球香川県大会において、四十二年ぶりに決勝進出を果たし、初の四国大会に出場しました。主将の神藤を中心に、全員野球で粘り強く有力校に食らいつきこれを撃破。二回戦から準決勝まで全て1点差試合に勝利するなど勝負強さを発揮し、見事準優勝に輝きました。



1回戦	10-0	高松中央	春季四国大会	1回戦	1-6	今治西
2回戦	6-5	香川高専高松				
3回戦	4-3	藤井学園寒川				
準々決勝	2-1	丸亀				
準決勝	3-2	多度津				
決勝	3-10	尽誠学園				

吹奏楽部

全日本吹奏楽コンクール 高校A部門初出場

琴高吹奏楽部はこれまでB部門という小編成 (30名まで) での出場でしたが、部員増に伴い、全国大会に通じるA部門に出場しました。課題曲・自由曲を合わせて12分以内で演奏し、金・銀・銅で成績がつかれます。今年の結果は銅賞という厳しいものでしたが、いろいろな反省と課題がみえました。この経験を生かし、今後ますます、聴いて下さる皆様に感動してもらえるような演奏ができるよう、練習に励んでいきたいと思っておりますので、応援よろしくお願いたします。



陸上競技部

県高校総体 2位 開口 佳樹 (四国大会出場)

地域で学び地域で育つ琴高生

5月9日に行われた本校体育祭の中で、琴平南幼稚園の園児と「電車でGOGOGO」という競技で、交流を行いました。琴高生も毎年楽しみにしているプログラムで、今年もとても楽しく交流できました。



小・中・高合同ミニサッカー大会 (コパ・デ・琴平)

8月10日: いこいの郷



小学生のゴールは3点、中学生は1点、高校生はヘディングシュートだけ。そんなルールで一緒にチームを作って対戦! 暑期中、楽しくボールを蹴り合い、元気いっぱい過ごしました。



8月23日に行われた琴平高校一日体験入学に多くの中学生が参加しました。皆、自分の高校生活を思い描いて真剣に取り組めていました。

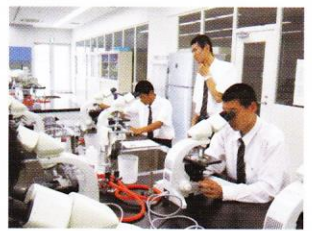
今後の予定

- 10/22 進路見学会 (1・2年生) ※県外大学他
- 12/3 ~ 12/6 修学旅行 (2年) ※北海道
- 12/17 異種武道大会 ※今年も行います。午前中どなたでもご覧いただけます。

進路実現に向けて

一年団 四月下旬に学部学科説明会を実施しました。この会は、コース選択に向けて自分の進路を考える材料を集めることを目的として実施しました。六大学、二専門・専修学校が参加して下さいました。生徒たちは、入学したばかりでしたが、自分の進路を考える大きなきっかけとなりました。

二年団 7月5日 (金) 就職と進学に分かれ、進路見学会を行いました。就職希望者は徳大倉工業へ、進学希望者は徳島文理大学やノートルダム清心女子大学、四国医療専門学校など自分の進路に合わせて、企業や大学、専門学校を訪ね、進路に対する意識を高めました。



「琴平から東北へ」とつながるプロジェクト

被災地との交流をおしえて

出発する前に…(家庭クラブ)

東北プロジェクトに家庭クラブらしい方法で協力したいと思い、首に巻くと涼しいエコクールタイを作ることになりました。5月中旬より授業単位、部活動単位でたくさんのおみなさんに関わっていただきました。「猛暑の中、少しでも涼しさを届けられたら」という思いが詰まったエコクールタイが大人用260本、子ども用130本完成し、7月26日にとらすとK、男子バレーボール部、郷土芸能同好会の代表者へお渡ししました。



プロジェクトの趣旨

二〇一一年三月十一日の東日本大震災から、もうすぐ二年半の月日が経とうとしています。被災地のニュースが減って来た今、生徒自身がその土地に立ち、人々との直接交流を通して現状を知ることの重要性は、増しているのかもしれない。

今回のプロジェクトは、東北の被災地の皆さんとの交流をおして、人と人とのつながりを広げていくとともに、未来に向かって共に生きる力や地域の一員として主体的に行動する力を育むことを目的として行われました。



エコクールタイを締め、いざ出発!

活動報告

8月3日(土)

朝6時半に琴高を出発し、900キロ、十二時間バスに揺られ、福島県会津若松市に到着しました。

8月4日(日)

宮城県石巻市に到着。東日本大震災最大の死者・行方不明者を出したこの町で、私達は二年以上経過した今も、建物の土台だけが残る壊滅地帯を訪れました。

仮設住宅団地集会所での郷土芸能同好会の公演には、たくさんの方が来てくださいました。「こんぴら船々」は、宮城県でも知名度が高く、皆さんと一緒に口ずさんでくださいました。

とらすとKのメンバーは、仮設住宅に住む文通相手のお宅に出かけて、念願の対面を果たしました。



高さ5メートルまで到達した津波の線(矢印)

8月5日(月)

男子バレーボール部は仙台市内で宮城県内の高校5校と交流試合を行いました。

気仙沼市では、郷土芸能同好会が「さかなの駅」で公演を行いました。野外ステージには、開演前から周辺の仮設住宅の方々が詰めかけてくださっていました。漁業の町気仙沼で「こんぴら船々」が大変喜ばれました。午後からは、とらすとKと郷土芸能同好会の部員がグ



仮設住宅に住む文通相手を訪問

様子や現状を聴かせて頂きました。

8月6日(火)

仮設住宅の見回り活動をしている気仙沼復興協会福祉部を訪問しました。家庭クラブ作製のエコクールタイと金刀比羅宮のお札を贈呈しました。

その後、東日本大震災の語り部さんに、現地を回りながら震災当日の生々しい状況を聴かせて頂きました。

午後には、仙台市内の男子バレーボール部と合流し、帰路につきました。



内陸まで流されてきた大型漁船

今回の交流に参加した部員達が中学校を卒業した日に、東日本大震災が起こったそうです。琴高入学後、彼女達は、被災地のことを案じながらメッセージカードを書きました。避難所から返信が届き、文通が始まりました。被災の様子、仮設住宅に移ったこと、体調のこと、日々の暮らしについて、たくさんの手紙を交換し、いつか会ってお話がしたいと思いつけて二年、やっと願いが叶いました。家族のように迎えられる、温かい言葉と笑顔に包まれた、たくさんのお元気をいただいたのは、実は私達の方でした。皆さんの優しさに心から感謝し、このつながりを大切にしていきたくと強く願いました。



文通相手と感激の対面(宮城県気仙沼市)

郷土芸能同好会

郷土芸能同好会は、三年生二名、二年生四名の計六名が今回の交流事業に参加しました。石巻市の仮設住宅や、気仙沼市の「さかなの駅」という商業施設で合計二回の公演を行いました。こんぴらさんに関するクイズや、「こんぴら船々」の手踊り講習など、観客も参加できる企画を考えました。東北の方々に、私たちの踊りが受けるのかという心配をよそに、どの方も笑顔で積極的に参加してくださいました。公演の最後にはじゃんけん大会で勝った五名の方に、香川県の嫁入り菓子「おいらい」をプレゼントし、観客の方々も私たちが笑顔のうちに交流を終えることができました。



バレーボール部男子

男子バレーボール部は、十六名の部員で今回の交流事業に参加しました。石巻市の被災地を見学した後、仙台市内に移動し、仙台第二高校で交流試合を行いました。震災で甚大な被害を受けた気仙沼向洋高校や名取北高校など、宮城県内の高校と練習試合を行いました。実際に自宅が流された選手や、仮設住宅で生活する選手もあり、昼食会で実話を聞くこともできました。悲しい経験をした選手と今前向きにバレーボールに取り組む姿勢を共にでき、逆に勇気と元気をもらうことができました。



東北遠征を通して

二一六 大塚 航輝

私達は二日目に宮城県石巻市の津波の被害が大きかった地域を訪問しました。そこで私は今までにテレビや新聞で見た光景を自分の目で実際に見ました。そしてその場所を自分たちで直接歩いて、生々しい被災地の様子を学びました。辺り一帯が津波で流されてしまった住宅地からはスプーンや靴など生活の跡が残っていてこの場所で悲惨な事があった事を物語っていました。また、災害復興住宅の建設に十年もかかることや、運河を隔てて被害の大きさが違うことなど報道されていない事も知ることができました。津波の実際の高さを記した建物も見ることができて、あまりの高さに驚きました。

三日目からは仙台市の仙台第二高校で宮城県の多くのチームと交流試合をしました。部員を亡くしていたり、校舎に津波が押し寄せてきていたり、震災でとても大きな被害を受けているのに、どのチームも元気がよくプレーしていかねばならないと、自分たちも元気がよくプレーしていかねばならないと、逆に励まされました。また、気仙沼向洋高校と一緒に昼食を食べたのですが、この学校は校舎の四階まで津波が押し寄せて大きな被害を受けています。でも、この学校の生徒と一緒に話している時に復興に関して「工業科の意地を見せたい」と静かな声で言っていた事に、復興への強い思いが感じられました。

実際に被災地に立ったり被災者の方と交流できたことは、自分自身にとって大切な経験になりました。香川県に住んでいるだけでは知ることもできない事をたくさん知ることができたので、家族や友達、地域の人にも伝えて、多くの人が東北のことについて深く知ることによって被災地の方の力になれると思います。また、試合を通して学んだことをこれからの自分たちのプレーに活かしたいと思います。